



研究主題 「学ぶことを楽しむ！」

～文教大学付属小学校型 ディープアクティブラーニング

学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～

平成30年9月26日(水)、本年度第3回目の校内研究授業を行った。今年度は研究主題である「学ぶことを楽しむ！～文教大学付属小学校型アクティブラーニング学びの深化を目指して「自ら問い続ける子どもを育てる授業」～について研究を重ねてきている。

第3回目は生活科の研究授業で、1年1組は、『なかよく ならうね 小さなともだち』を大塚隆夫教諭が、2年2組は、『文教ゆうびんきょくをひらこう』を神嶋凌介教諭が行った。1年1組の児童たちは、自分たちで世話をしている



ザリガニの良いところを手触り・におい・音・みため・お気に入りの5観点をもとに探し、観察カードにまとめて、自分のザリガニの良いところを級友と自慢しあった。2年2組の児童は生活科見学で田園調布郵便局にいたことを思い出しながら、「文教ゆうびんきょく」を成功させるためにどのように進めていくか考えてアイデアを持ち寄った。学習の最後には友達のアイデアに対して「それいいね」を伝え合った。



研究協議会では、「共感・啓発」「課題・疑問」「教師」「児童」の4要素に沿って良かった点と改善すべき点を付箋に記載しグループごとにまとめ成果と課題の発表を行った。また、今回は東京学芸大学の清水一豊先生を講師としてお招きし、授業と協議会の指導・講評も頂いた。清水先生からは生活科のこれまでの歴史にも触れながら、生活科は3年から理科と社会科につながっていくが、合



わさったものではない。生活科で知識と技能の基礎をしっかりと指導していくものだとご教授いただいた。また、どちらの授業も級友の発表を聞きに自分で行く場所を決定し、自ら動くところがとても良かったとお褒めの言葉をいただいた。今後も生活科の研究授業を行って3年生からの社会科と理科につながる生活科の学習の在り方を教職員全員でつくっていきたいと思う。

